

推敲あれこれ

水上比呂美×高野公彦

⑤



◆言い方が幼い場合

高野 このリレー対談はコロナ禍の中でスタートした企画なので、対面でなく、いつも電話で対談しています。今回は水上比呂美さんに登場していただきます。推敲例を用意して下さったので、それぞれについてお話を伺いたいと思います。

わが庭の椿の枝に五、六羽のすずめ鳴きつつかくれんぼする (原作)
わが庭の椿の枝に五、六羽のすずめ鳴きつつ葉陰をわたる (改作)

水上 結句の「かくれんぼする」が幼い言い方で、気になります。

高野 そうですね、まるで小学生か中学

生の歌みたい(笑)。

水上 そこを写実的に「葉陰をわたる」と直してみました。もしも原作の気分を生かすのでしたら、「葉陰に遊ぶ」でもいいと思います。

高野 はい。どちらでも落ち着きのある大人の歌になりますね。

駅裏のみどりの屋根の書店にて買物帰りに雑誌を立ち読む (原作)
駅裏のみどりの屋根の書店にて「オレンジページ」を立ち読みしたり(改作1)
買物のあと駅裏の書店にて「オレンジページ」を立ち読みしたり(改作2)

水上 これは「立ち読む」という動詞が変ですね。先月の小島さんとの対談で〈幽霊動詞〉という言葉が出ていました

が、この「立ち読む」もこの世に存在しない幽霊動詞です。そこを直して、ついでに雑誌の名前を入れてみたのが改作1です。

高野 雑誌名「オレンジページ」を入れるのは効果的ですね。料理作りの参考に立ち読みしているのだろう、と推測できますね。もし雑誌名が「週刊文春」だったら、作者はゴシップ好きの人(笑)。

水上 もう一つ、原作の「買物帰り」を残したい場合は、改作2のようにする方法があります。

高野 部品を変えると歌が変わる。そこが推敲の面白いところですね。例えば「買物のあと駅ビルの書店にて雑誌「世界」を立ち読みしたり」とすればインテリっぽい歌になる(笑)。

◆亡き母が行動している怪

亡き母とともに作りしぼた餅を娘と作るけふは母の忌 (原作)
若き日の母と作りしぼた餅を娘と作るけふは母の忌 (改作)

水上 亡き母と一緒にぼた餅は作れませ

んね(笑)。下に「母の忌」とありますから、「亡き」は要らないんです。

高野 そうですね。「在りし日の母と作りしぼた餅」でもいいんですが、「若き日の母と作りしぼた餅」のほうがイメージが湧いて、こちらのほうがいいですね。

はつなつに白き花咲くふるさとの木々
なつかしと偲びてをりぬ (原作)
はつなつに白き花咲く蜜柑の木ひとり
偲びぬふるさと紀伊を (改作)

水上 何の木か分からないのが惜しいので、一つの例として蜜柑の木を入れてみました。それに連動して、ふるさとを紀伊としてみました。

高野 いいですねえ。改作のほうが断然いいと思います。結句は「ふるさと和歌山」でもいいんでしょうが、字余りなので、旧国名の紀伊を使う。旧国名は便利なので、短歌ではよく使われますね。

◆通俗的な「も」をやめる

梅雨入りも近くなりつつ菜園の各種野菜に降る雨しづか (原作)

梅雨入りの近くなりつつ菜園の根菜、果菜に降る雨しづか (改作)

高野 ここからは私の用意した推敲例です。「梅雨入りも近くなりつつ」の「も」が、何か勿体ぶっている感じで、通俗的ですね。普通に「梅雨入りの」としたほうがいい。ついでに「各種野菜」は漠然としているので、少し具体的に「根菜、果菜」としてみました。

水上 もっと具体的に「菜園の人参、茄子に降る雨しづか」とする方法もあるでしょうが、「根菜、果菜に」のほうが野菜の種類が豊かな感じがします。コンサイ、カサイという脚韻も魅力的ですね。

やはらかく心にひびく鐘の音を連れて
巡りぬ雨の寺町 (原作)
やはらかく心にひびく鐘の音と共に巡りぬ雨の寺町 (改作)

高野 これ、「鐘の音を連れて巡りぬ」というのがなかなかシャレしていますね。でもちよつとシャレすぎているので、変えたい。そう思って「鐘の音と共に巡りぬ」と直してみました。

水上 とてもいいと思います。性格のいい人の歌、という感じですね(笑)。もう一つの言い方は「鐘の音を聞きつつ巡る」ですが、これは歌が少し平凡になりますね。

ヨガ体操まいにち続けそんなもん姉に
言はれて鏡の前に (原作)
ヨガ体操まいにち続けそんなもん姉に
言はれて鏡を覗く (改作)

高野 これは述語を省いた歌です。「鏡の前に」を受ける述語がない。作者はこれがいいと思っているんでしょう。あるいは、省略したほうがカッコいいと思っ

ているのかもしれない。でもそれは思い違いです。述語を省略すると、歌は通俗的または軽薄になる。
水上 本当にそうですね。結句を「鏡を覗く」と直せば、「そんなもん」という話し言葉を生かした面白い歌になりますね。

高野 この歌、「姉に言はれて」だからいいんですが、もし「夫に言はれ」だったら大変でしょうね。
水上 結句は「離婚に到る」かな(笑)。